

第5学年 理科学習モデル指導案（15分）

1. 単元名 「人のたんじょう」

2. 本時について

(1) 本時の目標

- 生命の誕生や成長のすばらしさに感動し、つながってきた自分の生命を大切にしようとする。
- 人の子どもが母親のお腹の中でどのように成長していくのかについて、考えることができる。

(2) 本時の展開

分	学習活動	教師の支援
0	<p>○これまでの学習をふり返る。</p> <p>（例）植物の発芽（5年）、メダカの誕生（5年）、植物の成長（3年）、昆虫の成長（3年）</p> <p>T：これまでに学習してきた生き物や植物は、どのように成長していったのでしょうか。</p> <p>C：メダカは卵で生まれて孵化してから、だんだんと成長して大きくなった。</p> <p>C：インゲンマメは種子の中の養分を使って発芽し、成長を始めた。成長には日光や肥料が必要だった。</p> <p>C：ホウセンカは、種子から芽を出し、花が咲いて実ができた。</p> <p>C：チョウは、卵→幼虫→さなぎ→成虫という順に成長した。</p> <p>T：植物は種子から、昆虫やメダカは卵から成長していましたね。では、その種子や卵は、どうやってできたのでしょうか。</p> <p>C：大きくなったメダカから産まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を参考にしてもよいことを伝える。 ・〈メダカ〉「卵」→「小さいメダカ」→「大きいメダカ」→「卵」 〈ホウセンカ〉「種子」→「子葉」→「つぼみ」→「花」→「実」→「種子」 など、それぞれの成長の過程を板書する。
5	<p>C：卵から成長し、成虫がまた卵を産む。</p> <p>C：花が咲いた後に種子ができる。その種子から芽が出る。</p> <p>C：種子や卵から成長して大きくなったら、また種子や卵を残すというように、くり返しになっている。</p> <p>T：では、人はどうでしょうか。ワークシートを見て気付いたことを発表しましょう。</p> <p>C：お父さんやお母さんにも、ぼくたちと同じ5年生の頃があったことがわかった。</p> <p>C：自分も、未来ではお父さんやお母さんになって命をつないでいくのだと思う。</p> <p>C：過去から未来へと命はずっとつながっていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命はつながっていることに気付くことができるように促す。 ・板書した成長の過程で、最後の項目「大きいメダカ」「成虫」から、最初の項目「卵」に戻るように矢印を引いて、命が連鎖していることを意識させる。 ・いろいろな見方や意見を受け入れる。 ・絵のない所にも、過去や未来の人たちがいることに気付くことができるように促す。

☆キャリアの宝につながる解説(児童への落とし込み)をする。

今までの学習や、ワークシートから、生き物も植物も、命はぐるぐるとつながっていることがわかりましたね。みんなの命も、こうしてずっと昔からつながってきました。みんなの後ろには、お父さん、お母さん、お父さんの方のおじいちゃんおばあちゃん、お母さんの方のおじいちゃんおばあちゃん、お父さんの方のおじいちゃんの方のひいおじいちゃんひいおばあちゃん…というように、たくさんの方がいるのです。多くの人々から命をもらって、今のみなさんがいます。このように一人ひとりの命は、みんながつないでくれた、大切な命なのです。そして、みなさんもこのつながりを未来へとつなげていく一員であるのです。

○職業シートを配付し、読み合わせる。

T：ではここで、命のつながりを守る活動をしている人の話を読んでみましょう。

○ワークシートに感想を書く。

C：わたしの命は、わたしだけのものではないことがわかった。

C：みんなから受けついだ命だから、精一杯大切に生きてこうと思った。

【本単元の導入につなげる】

○母親のお腹の中の子どもの様子を予想し、話し合う。

*単元の導入に入る前に、参考資料の読み聞かせを行い、感想を共有してもよい。

・命がつながるということは、当たり前のことではなく、とても尊いことなのだという事に気付くことができるように促す。

10

※参考資料

「いのちのまつり ヌチヌグスージ」 草場 一壽 作 サンマーク出版